

2007年9月12日

ソフトバンクテレコムへ「L2Connect」技術を提供「ULTINA Managed Ether」サービスの品質向上に貢献

三菱マテリアル株式会社(社長:井手 明彦、資本金1,194億円)の戦略事業開発室は、ソフトバンクテレコム株式会社(社長:孫 正義、資本金1億円、以下ソフトバンクテレコム)のエントリー型VPNサービス「ULTINA Managed Ether」^{注1)}の品質向上を目的として、当社が独自に開発した「L2Connect」^{注2)}の技術が採用されたことを発表いたします。

「ULTINA Managed Ether」(図1)は、ソフトバンクテレコムが昨年4月より提供しているブロードバンドVPNサービスで、拠点当たり3,000円という低価格と、レイヤ2/レイヤ3に対応する柔軟性を特徴としています。当社は、このサービスの更なる品質向上を目的に昨年末から開始された開発に参画し、その成果は本年5月より実サービスに適用されております。「L2Connect」の技術が採用された理由は以下の3点です。

1. 中央通信拠点での収容率を改善

「ULTINA Managed Ether」はソフトバンクテレコムのネットワークセンターにて通信制御されています。このネットワークセンター内の収容設備に「L2Connect」のASPサービス向け機能として当社が培ってきたノウハウを提供することで、より多くの回線を1台の機器に収容できるようになりました。

2. 拠点コスト削減のための機器組込みを改善

これまでのVPNサービスでは拠点にVPNルータを設置する必要がありましたが、「ULTINA Managed Ether」では、ソフトバンクグループが提供する回線終端装置にVPNルータ機能を追加することにより機器数を減らし、設置費用と保守費用を大きく低減することに成功しました。この、回線終端装置の安定性を向上させるため、「L2Connect」の技術開発で培ったノウハウを提供しました。

3. 既存VPNサービスとの連携によるトータルコスト削減

ソフトバンクテレコムでは、「ULTINA Managed Ether」を「ULTINA IP-VPN」や「ULTINA Wide Ethernet」等と接続したVPNソリューション(「ULTINA VPN Convergence」)を構築するとともに、様々なICTプラットフォームと組み合わせ提供しています(図2)。これにより、様々なお客様のニーズに合わせて柔軟なサービスを提供することが可能です。文字通りレイヤ2技術である「L2Connect」の適用は、これらサービスラインアップを一層広げるものとなります。

当社の「L2Connect」技術の採用は、「ULTINA Managed Ether」の信頼性、安定性向上に大きく寄与しました。今後、国内企業の競争力を高める通信基盤として、様々な企業への導入が進むと期待されます。

当社のソフトウェアVPN技術を第一種通信事業者が提供する高信頼性の拠点間接続サービスに提供したことを通じて、当社は貴重な多くのノウハウを得ることができました。また、本事例は、「L2Connect」製品自身の高い性能と安定性だけでなく、当社が第一種通信事業者のサービスに協力できるだけの高いサポート能力と事業基盤とを持っていることも示しています。

当社では、今後も継続して「ULTINA Managed Ether」サービスの価値向上に協力するとともに、今回の開発によるノウハウや当社の独自のアイデアを反映させた「L2Connect」の新バージョン開発を進めて参ります。

注1)ULTINA Managed Ether

これまで主に専用回線が用いられていた企業向けネットワークとして、数年前から、安価で広帯域な「IP-VPN」「広域イーサネット」や、インターネットを用いることにより更にコストを下げられる「インターネットVPN」が広く普及しました。一方で、通信事業者は、いわゆる「エントリー型VPN」と呼ばれる、閉域性、経済性、信頼性を特徴とする新しいサービスの提供を開始し、主に大企業の小規模拠点やバックアップ回線、あるいは中小企業向けの拠点間接続のために導入が進んでいます。

ソフトバンクテレコムのネットワークサービスラインアップのなかで、このエントリー型VPNに相当するのが「ULTINA Managed Ether」です。

注2) L2Connect

インターネットをはじめとする既存のIPネットワークを経由して、様々なPCやスマートフォン、LANを安全に接続するオーバーレイネットワークを作り出すソフトウェア製品で、当社が独自に開発しました。(1)数社のASPサービスを支える高い安全性と安定性、(2)作り込まれたコンパクトなソフトウェアで様々な機器に組み込みが容易、(3)レイヤ2での接続のため、利用範囲が広く、運用も容易、(4)既存システムとの高い親和性、(5)スマートフォンも含めた各種OSに対応等、様々なメリットを持っています。

L2connectについてはホームページ(<http://www.kisp.jp>)をご参照ください。

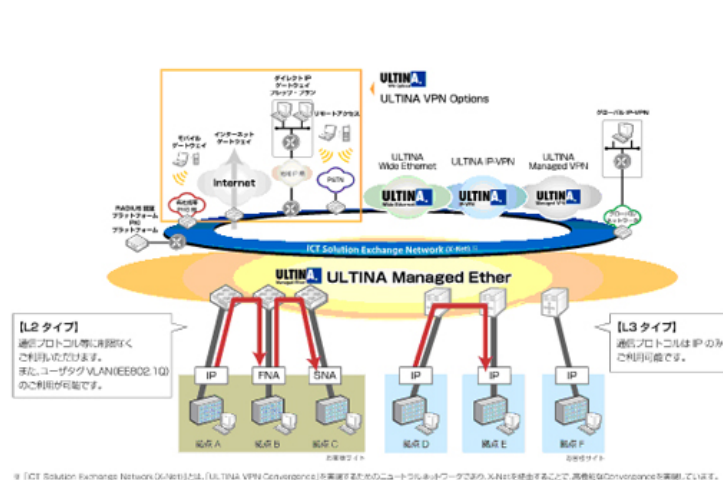
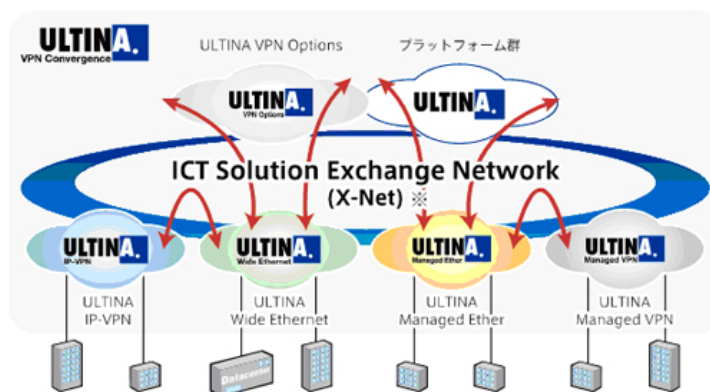


図1 「ULTINA Managed Ether」概念図

多様なオプションサービスと各VPNとの接続を実現するバックボーン「ICT Solution Exchange Network (X-Net)」を経由することにより、お客様が必要とする適材適所のネットワークインフラを構築することが可能になります。



※「ICT Solution Exchange Network (X-Net)」とは、ULTINA VPN Convergenceを実現するためのニューラルネットワークであり、X-Netを経由することで、高機能なConvergenceを実現しています。

図2 「ULTINA VPN Convergence」概念図

以上